



かいご げんば 介護の現場から



ケアマネジャーは利用者や家族の話に傾聴（アセスメント）し、意思・意向を尊重し、デイサービス、訪問看護、ヘルパー、福祉用具、ショートステイなどの利用を調整して計画を立て、適宜、修正しながら利用者の介護計画が軌道に乗るようにします。合わなかったら、何度でも訪問して話し合います。それで、軌道に乗ってくると利用者の表情が変わってくるのです。サービスが始まるまでは伏し目がちだった利用者が、ケアマネの訪問（モニタリング）を楽しみにしてくれるようになり、「リハビリの先生と近隣まで歩けるようになった」と喜々として報告してくれます。デイサービスに週1回、渋々行っていた人が週4回楽しんで行っていると娘さんが教えてくれます。「私は90歳、あんたはいくつ?」「〇〇歳です。」「まだまだやね。頑張れ頑張れ」とにっこり、こうした利用者の励ましも聞けます。この励ましに「学問は一種の経験であり、経験はまた一種の学問である」を思い出し、私は利用者の哲学を感じます。「100歳まで頑張るぞ」と拳を振り上げる笑顔たっぷりの90歳は頼もしいです。私は、こうした利用者や多職種の人たちから元気をもらって、いつまでも皆が笑顔になれるように頑張っていきます。
(なずなケアプランセンター：K主任介護支援専門員)

